

第 11 章 監視計画

11-1 事後調査を行うこととした理由

事後調査は、調査、予測及び評価の結果を踏まえ、予測結果の検証及び追加的な環境保全措置を実施することを目的として実施する。

11-2 事後調査の項目及び方法

11-2-1 工事中

工事中における事後調査の項目及び方法等は、表 11-2-1 に示すとおりである。

表 11-2-1 (1) 工事中における事後調査の項目及び方法

事後調査の項目			事後調査の方法		
環境要素	影響要因	対象項目	調査地点	調査の手法	調査期間
大気質	建設機械の稼働	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	対象事業実施区域の敷地境界 1 地点	環境基準に定める測定方法	工事による影響が最大となる時期の 1 週間
	建設機械の稼働・造成等の工事	粉じん (降下ばいじん)	対象事業実施区域の敷地境界 1 地点	衛生試験法に基づく方法(ダストジャーにて測定)	工事による影響が最大となる時期の 1 ヶ月間
	工事用車両の走行	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	工事用車両の主要走行経路上 1 地点	環境基準に定める測定方法	工事による影響が最大となる時期の 1 週間
		粉じん (降下ばいじん)	工事用車両の主要走行経路上 1 地点	衛生試験法に基づく方法(ダストジャーにて測定)	工事による影響が最大となる時期の 1 ヶ月間
騒音	建設機械の稼働	騒音レベル	対象事業実施区域の敷地境界 1 地点	JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」に定める測定方法	工事による影響が最大となる時期の 1 日間(工事実施時間帯)
	工事用車両の走行	騒音レベル	工事用車両の主要走行経路上 1 地点	環境基準に定める測定方法	工事による影響が最大となる時期の 1 日間(工事用車両走行時間帯)
振動	建設機械の稼働	振動レベル	対象事業実施区域の敷地境界 1 地点	「振動規制法施行規則」等に定める測定方法	工事による影響が最大となる時期の 1 日間(工事実施時間帯)
	工事用車両の走行	振動レベル	工事用車両の主要走行経路上 1 地点	「振動規制法施行規則」等に定める測定方法	工事による影響が最大となる時期の 1 日間(工事用車両走行時間帯)
水質	造成等の工事	浮遊物質 水素イオン濃度	鹿島川 1 地点	環境基準に定める方法	工事による影響が最大となる時期 1 回(降雨時)
水象	造成等の工事	河川流量等	鹿島川 1 地点	「水質調査方法について」に定める測定方法	工事による影響が最大となる時期 1 回(降雨時)
		地下水位	対象事業実施区域 4 地点	地下水位計を用いて観測	工事による影響が最大となる時期(年 4 回)
		湧水量	対象事業実施区域近傍の土水路 3 地点	「水質調査方法について」に定める測定方法	工事による影響が最大となる時期(年 4 回)
		水辺環境	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認、植物、動物等の調査結果整理・解析	工事による影響が最大となる時期(年 4 回)
地形・地質	造成等の工事	現況地形	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認	工事による影響が最大となる時期 1 回
		注目すべき地形・地質等	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認	工事による影響が最大となる時期 1 回
土壌	造成等の工事	表土	対象事業実施区域	現地調査による確認	工事による影響が最大となる時期 1 回

表 11-2-1 (2) 工事中における事後調査の項目及び方法

事後調査の項目			事後調査の方法		
環境要素	影響要因	対象項目	調査地点	調査の手法	調査期間
植物	造成等の工事	環境保全措置の実施状況	環境保全措置の実施地点	移植を行う種に対する環境保全措置の実施状況を調査	環境保全措置実施後、各種の確認適期/年、3年間
動物	建設機械の稼働	環境保全措置の実施状況	対象事業実施区域及びその周辺	サシバに対する環境保全措置の実施状況を調査(生息状況調査による確認)	工事期間のうち、サシバの繁殖期
	工事用車両の走行				
	造成等の工事				
水生生物	造成等の工事	環境保全措置の実施状況	環境保全措置の実施地点	水生生物に対する環境保全措置の実施状況を調査(任意採集による生息状況の確認)	工事による影響が最大となる時期(年3回)
生態系	建設機械の稼働	注目種の生育・生息状況の変化等	対象事業実施区域及びその周辺	キツネ、在来カエル類の生息状況を調査(無人撮影カメラ及びフィールドサイン法・直接観察法)	工事による影響が最大となる時期(キツネ:1年、在来カエル類:各種の確認適期)
	工事用車両の走行				
	造成等の工事				
景観	造成等の工事	景観資源	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認	工事による影響が最大となる時期1回
ふれあい活動の場	建設機械の稼働	ふれあい活動の場の状況	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認	工事による影響が最大となる時期(年4回)
	工事用車両の走行				
	造成等の工事				
文化財	造成等の工事	埋蔵文化財	対象事業実施区域	現地調査による確認	工事による影響が最大となる時期1回
廃棄物等	造成等の工事	廃棄物	対象事業実施区域	工事関係資料の整理	工事期間中
		残土	対象事業実施区域	工事関係資料の整理	工事期間中
温室効果ガス等	建設機械の稼働	二酸化炭素	対象事業実施区域	工事関係資料の整理	工事期間中
	工事用車両の走行	二酸化炭素	対象事業実施区域及び工事用車両の走行範囲	工事関係資料の整理	工事期間中
	造成等の工事	二酸化炭素	対象事業実施区域	工事関係資料の整理	工事期間中

11-2-2 供用時

供用時における事後調査の項目及び方法等は、表 11-2-2 に示すとおりである。

表 11-2-2(1) 供用時における事後調査の項目及び方法

事後調査の項目			事後調査の方法		
環境要素	影響要因	対象項目	調査地点	調査の手法	調査期間
大気質	施設の稼働	二酸化窒素 二酸化硫黄 浮遊粒子状物質	対象事業実施区域の敷地境界 1 地点	環境基準に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期の 1 週間
	関連車両の走行	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	関連車両の主要走行経路上 2 地点	環境基準に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期の 1 週間
悪臭	施設の稼働	臭気指数	対象事業実施区域敷地境界 2 地点と除外地付近 1 地点	「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回（夏季）
騒音	施設の稼働	騒音レベル	対象事業実施区域の敷地境界 1 地点	JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期の 1 日間
	関連車両の走行	騒音レベル	関連車両の主要走行経路上 2 地点	環境基準に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期の 1 日間
振動	施設の稼働	振動レベル	対象事業実施区域の敷地境界 1 地点	「振動規制法施行規則」等に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期の 1 日間
	関連車両の走行	振動レベル	関連車両の主要走行経路上 2 地点	「振動規制法施行規則」等に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期の 1 日間
低周波音	施設の稼働	低周波音	対象事業実施区域の敷地境界 1 地点	「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期の 1 日間
水象	地形変化後の土地及び工作物等の存在	河川流量等	鹿島川 1 地点	「水質調査方法について」に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回（降雨時）
		地下水位	対象事業実施区域 4 地点	地下水位計を用いて観測	工事による影響が最大となる時期（年 4 回）
		湧水量	対象事業実施区域近傍の土水路 3 地点	「水質調査方法について」に定める測定方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期（年 4 回）
		水辺環境	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認、植物、動物等の調査結果整理・解析	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回
地形・地質	地形変化後の土地及び工作物等の存在	現況地形	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回
		注目すべき地形・地質等	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回
土壌	地形変化後の土地及び工作物等の存在	表土	対象事業実施区域	現地調査による確認	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回
日照阻害	地形変化後の土地及び工作物等の存在	日影の状況	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認、竣工図を基にした日影図作成	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回
電波障害	地形変化後の土地及び工作物等の存在	テレビ電波の受信状況	対象事業実施区域及びその周辺	電界強度測定車を用いる路上調査	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回
植物	地形変化後の土地及び工作物等の存在	環境保全措置の実施状況	環境保全措置の実施地点	現地調査による確認	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1 回

表 11-2-2(2) 供用時における事後調査の項目及び方法

事後調査の項目			事後調査の方法		
環境要素	影響要因	対象項目	調査地点	調査の手法	調査期間
動物	地形改変後の土地及び工作物等の存在	環境保全措置の実施状況	環境保全措置の実施地点	サシバの生息状況を調査(生息状況調査による確認)	供用開始後1年間(サシバの繁殖期)
水生生物	地形改変後の土地及び工作物等の存在	環境保全措置の実施状況	環境保全措置の実施地点	水生生物に対する環境保全措置の実施状況を調査(任意採集による生息状況の確認)	進出企業の事業活動が定常状態となる時期(年3回)
生態系	地形改変後の土地及び工作物等の存在	注目種の生育・生息状況の変化等	環境保全措置の実施地点	キツネ、在来カエル類の生息状況を調査(無人撮影カメラ及びフィールドサイン法・直接観察法)	進出企業の事業活動が定常状態となる時期(キツネ:1年、在来カエル類:各種の確認適期)
景観	地形改変後の土地及び工作物等の存在	景観資源	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1回
		眺望地点 眺望景観	対象事業実施区域及びその周辺	写真撮影を行う方法	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1回
ふれあい活動の場	地形改変後の土地及び工作物等の存在	ふれあい活動の場の状況	対象事業実施区域及びその周辺 2 地点	現地調査による確認	進出企業の事業活動が定常状態となる時期(年4回)
	関連車両の走行				
文化財	地形改変後の土地及び工作物等の存在	埋蔵文化財	対象事業実施区域	現地調査による確認	工事が完了した時期
地域分断	地形改変後の土地及び工作物等の存在	地域コミュニティの状況	対象事業実施区域及びその周辺	現地調査による確認	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1回
廃棄物等	施設の稼働	廃棄物	対象事業実施区域	進出企業関係資料の整理	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1年間
温室効果ガス等	施設の稼働	二酸化炭素	対象事業実施区域	進出企業関係資料の整理	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1年間
	関連車両の走行	二酸化炭素	対象事業実施区域及び関連車両の走行範囲	進出企業関係資料の整理	進出企業の事業活動が定常状態となる時期 1年間

11-3 環境影響の程度が大きいことが明らかとなった場合の方針

事後調査の結果、環境への著しい影響が確認された場合またはそのおそれがある場合には、関係機関と連絡を取り、必要な措置を講ずるものとする。

11-4 事後調査の結果の公表の方法

事後調査の結果を記載した報告書については、調査が終了したのちに千葉市長に速やかに提出し、事業者のホームページにおいて公表する。

11-5 事後調査の実施主体等

事後調査については、事業者が実施する。